

田辺三菱製薬の価値創造モデル

「医薬品の創製を通じて、 世界の人々の健康に貢献します」

私たち田辺三菱製薬は2007年10月に発足しました。

世界の人々の健康に新たな価値で貢献するために、今までも、そしてこれからも、
医療の未来を切り拓く私たちの挑戦は続いていきます。

事業・戦略 → P.09,25

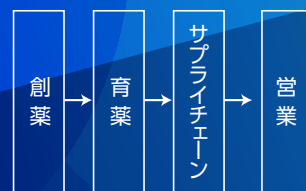
戦略

中期経営計画 16-20

“Open Up

挑戦1) パイプライン価値最大化
挑戦2) 育薬・営業強化

事業プロセス



リスク

- 生活習慣病罹患率の増加、死亡率上昇
- 医療保険システムの破たんリスク増
- 医療・健康分野への異業種からの参入拡大(競争の激化)

マテリアリティ → P.07

価値創造の礎 いしづえ

- 多様な人材
- コンプライアンス
- コーポレート・ガバナンス

強み

→ P.05

- 創薬力/育薬力
- 患者さん・医療関係者からの信頼
- 挑戦・変革のDNA
- 伝統ある製薬企業としてのコアバリューチェーン

想い



世界の人々の健康に
貢献

- 新たな価値を持つ
医薬品・医療サービスの創製
- 製品の品質保証と安定供給
- 製品の適正使用の推進
- 倫理的で公正・誠実な事業活動
- ステークホルダーとの対話と信頼される情報開示
- 従業員の健康と多様性の尊重
- 人々の健康に関連する社会貢献活動

社会への
価値提供 → P.11

“健康寿命の延伸”

価値創造への
アプローチ → P.10

独自の価値を
一番乗りでお届けするための

開発 パイプライン

新たな医療ニーズに
貢献する

モダリティ・ デジタル変革

患者さんと ご家族の QOL向上

QOL(クオリティオブライフ)、
つまり人生および生活の質を
高めることに貢献していきます。

社会の生産性向上

優れた医薬品・
医療サービスの提供によって、
社会の生産性を高めることに
貢献していきます。

疾病の予防

感染症を予防するワクチンや
病状の悪化を未然に防ぐ
医療を通じ、人々の健康維持に
貢献していきます。

主なステークホルダー

- 患者さんとご家族
- 医療関係者
- 株主・投資家
- 従業員
- 取引先
- 地域社会

3 すべての人に
健康と福祉を



5 ジェンダー平等を
実現しよう



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



12 つくる責任
つかう責任



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナリシップで
目標を達成しよう



the Future”

医療の未来を切り拓く

- 挑戦3) 米国事業展開
- 挑戦4) 業務生産性改革

重点4領域

- 免疫炎症
- 糖尿病・腎
- 中枢神経
- ワクチン

機会

- 健康情報サービス市場の拡大
(治療から予防へのシフト)
- アンメット・メディカル・ニーズの顕在化
- ICTによる医療・健康情報の
データ化の進展

強み

実績に裏付けされた 田辺三菱製薬の強み

当社グループは創薬力と育薬力を強みとし、多くの画期的な薬を創出してきました。

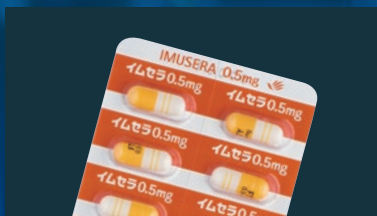
それを支えるのは、ステークホルダーとの信頼関係です。

300年以上の歴史に裏付けられた「挑戦・変革のDNA」をもとに、これからも社会に新たな価値を提供していきます。

1. 創薬力／育薬力

イムセラ(ジレニア)

注射剤に代わる世界初の経口治療薬として現在80以上の国・地域で多発性硬化症の治療に貢献しています。



テネリア、カナグル(インヴォカナ)、カナリア

作用機序が全く異なる2剤の自社創製品に、国内初の配合錠も加え、糖尿病治療に貢献しています。



2. 患者さん・医療関係者からの信頼

3. 挑戦・変革のDNA

4. 伝統ある製薬企業としてのコアバリューチェーン

ラジカヴァ(ラジカット)

米国でALSの病態進展を抑制する約20年ぶりの新薬として、患者さんのQOL向上に貢献しています。



レミケード

日本初の抗体医薬品として、関節リウマチを含め国内で13の適応症を有し、さまざまな疾患治療に貢献しています。





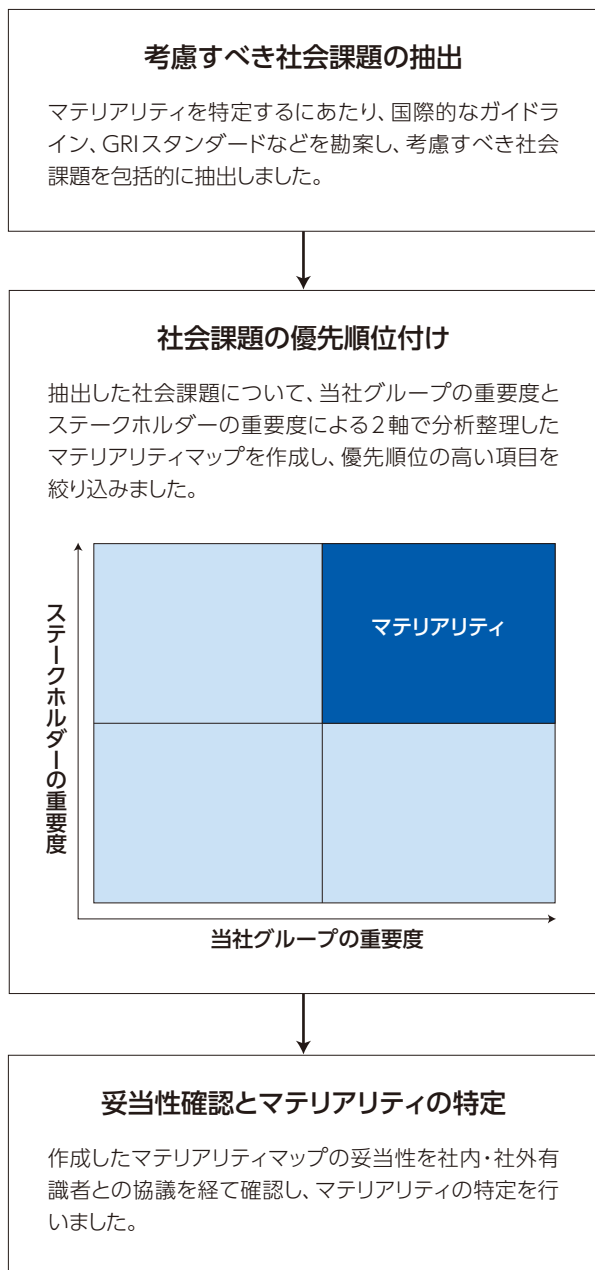
S Strength

マテリアリティ

当社グループは、「医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献します」という企業理念のもと、事業を通じて社会に価値を提供し、持続可能な社会の実現に寄与していくことが、長期的な成長に不可欠であると考えています。

その考えを明確にし、取り組みを強化していくため、当社グループが取り組むべきマテリアリティを特定し、それぞれにモニタリング指標を設定しました。

マテリアリティ特定プロセス



マテリアリティ／主な取り組み／モニタリング指標

マテリアリティ	主な取り組み
① 新たな価値を持つ 医薬品・医療サービスの 創製	新薬の創製、効能追加、用法用量の変更、剤型追加、製品の改善
② 製品の 品質保証と安定供給	高品質な医薬品を安定供給するための体制の構築
③ 製品の適正使用の推進	製品に関するお問い合わせ窓口の設置、安全性情報の収集、適正使用に関する情報提供活動
④ 倫理的で公正・誠実な 事業活動	コンプライアンス意識の醸成、各種ポリシー等の制定・遵守、コンプライアンスやハラスメントに関するホットラインの設置
⑤ ステークホルダーとの 対話と 信頼される情報開示	会社情報の適時・適切な開示、投資家や従業員などステークホルダーとの対話
⑥ 従業員の健康と 多様性の尊重	健康経営の推進、産休・育休・介護休暇・テレワーク、LGBTへの取り組みなどすべての従業員が活躍できる職場環境の整備
⑦ 人々の健康に関連する 社会貢献活動	患者団体支援、研究助成、疾患啓発活動、発展途上国へのワクチン提供支援、GHIT Fund

WEB

「KAITEKI」については、下記をご参照ください。
https://www.mitsubishichem-hd.co.jp/kaiteki_management/kaiteki/



	モニタリング指標	2018年度実績(集計範囲)	関連するSDGs	関連するKAITEKI MOS指標※1
	<ul style="list-style-type: none"> ●承認数(過去5年) ●製品の改善件数(過去5年) ●創薬に関する受賞歴(2007年合併以降累計) ●ワクチン出荷数 ●当社が提供するオーファンドラッグ※2の使用患者数 	<ul style="list-style-type: none"> 23件(国内外) 13件(国内外) 18件(国内外) 1,700万本(国内) 10万人(国内外) 		<ul style="list-style-type: none"> H-1 (疾病治療への貢献) H-2 (疾病予防・早期発見への貢献)
	<ul style="list-style-type: none"> ●グループ製造所における自責クレーム発生率 ●品質のお問い合わせに対する顧客満足度 	<ul style="list-style-type: none"> 1ppm※3(国内外) 92.4%(国内) 		<ul style="list-style-type: none"> C-1 (社会からより信頼される企業への取り組み)
	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究に関する外部発表数(論文・学会等) ●MRによる安全管理情報収集件数 	<ul style="list-style-type: none"> 56件(国内外) 7,419件(国内) 		<ul style="list-style-type: none"> C-1 (社会からより信頼される企業への取り組み)
	<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンス研修受講率 ●コンプライアンスに関する従業員の意識(5点満点) 	<ul style="list-style-type: none"> 97.7%(国内) 4.34点(国内) 		<ul style="list-style-type: none"> C-1 (社会からより信頼される企業への取り組み)
	<ul style="list-style-type: none"> ●投資家向け説明会・面談実施数 ●従業員の経営層に対する理解度(5点満点) ●次世代教育支援活動の実施数(出前授業、企業訪問の受け入れなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 198回(国内外) 3.68点(国内) 10回(国内) 		<ul style="list-style-type: none"> C-2 (ステークホルダーとのコミュニケーション、協奏の推進)
	<ul style="list-style-type: none"> ●総労働時間数(従業員1人、1ヵ月あたり) ●有給休暇取得率 ●喫煙率 ●多様性に関する従業員の意識(5点満点) ●女性管理職比率 ●従業員国籍数 	<ul style="list-style-type: none"> 153.9時間(国内) 68%(国内) 19.8%(国内) 3.72点(国内) 20.2%(国内外) 29ヵ国(国内外) 		<ul style="list-style-type: none"> C-2 (ステークホルダーとのコミュニケーション、協奏の推進)
	<ul style="list-style-type: none"> ●健康支援サイト訪問者数 ●従業員の社会貢献活動参加率 ●手のひらパートナープログラム助成団体数(2013年度助成開始以降累計) ●途上国の人々の健康に貢献するプログラムによる支援数 	<ul style="list-style-type: none"> 729万人(国内外) 42.3%(国内) 91団体(国内) 給食1万2,236食(国内) ワクチン1万4,500人分(国内) 		<ul style="list-style-type: none"> C-2 (ステークホルダーとのコミュニケーション、協奏の推進)

※1 MOS指標: Management of Sustainability(MOS) 三菱ケミカルホールディングス独自の経営手法 ※2 オーファンドラッグ: 希少疾病用医薬品 ※3 1ppm=0.0001%

事業・戦略

中期経営計画 16-20の概要

Open Up the Future

医療の未来を切り拓く

医薬品産業を取り巻く環境が急激に変化する中、
我々は自ら道を切り拓き、
「独自の価値を一番乗りでお届けする、スピード感のある企業」への変革を成し遂げます。

未来を切り拓く「4つの挑戦」

挑戦 1.	パイプライン価値最大化 独自の価値を最速で創り出す	研究開発プロセス の改革	+	医療と 創薬技術の拡がり
挑戦 2.	育薬・営業強化 独自の価値を患者さんにお届けする	製品の 価値最大化	+	営業プロモーション の強化
挑戦 3.	米国事業展開 持続的成長基盤を構築する	事業基盤の 構築	+	製品ラインアップ の構築
挑戦 4.	業務生産性改革 スピード感ある組織風土と利益創造体質の実現	コストの低減	+	人材の活躍

3つの成長ドライバー

	特長・魅力	目標・戦略
MT-1186 ラジカヴァ経口剤	<ul style="list-style-type: none"> ● ALS患者さんが服用しやすい懸濁剤の開発 ● 点滴静注投与による長時間拘束の解消 ● 投薬場所による制限の解消 	2021年度上市をめざして米国FDAと開発計画協議中。既存の点滴静注製剤とあわせてピーク時売上700~1,000億円を目標とする。
MT-2271 季節性インフルエンザ 植物由来VLP [*] ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ● 製造期間の短縮 ● 鶏卵ワクチンで見られる有効性低下(卵馴化)を回避 	2021年度上市をめざす。非鶏卵ワクチンの需要拡大による市場伸長を見込み、ピーク時売上400~600億円を目標とする。
ND0612	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続皮下注射投与により血中レボドパ濃度を安定化し、パーキンソン病患者さんの運動合併症の発現時間を改善 	2022年度上市をめざす。デバイスと医薬品を組み合わせた製品であり、他社の参入障壁も高く、市場価値の持続が期待される。ピーク時売上500~800億円を目標とする。

* Virus-Like Particle(ウイルス様粒子)の略。VLPの性質を活かし、理論上感染の恐れがない安全なワクチン作製が期待されている。

価値創造へのアプローチ

主な開発パイプライン

MT-1303 (amiselimod)

ライセンス契約を締結 (2019年4月)	<ul style="list-style-type: none"> ● ボッシュ・ヘルス・カンパニーズに日本およびアジアの一部を除く全世界における開発、販売を独占的に行う権利を許諾 (ただし、「神経疾患・膠原病およびその他特定の希少な皮膚疾患」の領域は除く) ● ボッシュ・ヘルス・カンパニーズの100%子会社サリックス・ファーマシューティカルズは、潰瘍性大腸炎のグローバル開発を開始する予定
今後の当社の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● サリックス・ファーマシューティカルズが実施する臨床試験データを活用し、当社テリトリーでの承認申請および販売 ● 自社による神経疾患・膠原病等の疾患領域でのグローバル開発

後期開発入りをめざす品目

品目	対象疾患	アンメット・メディカル・ニーズ ^{*1}	2019年度の予定
MT-8554	血管運動神経症状 (VMS)	ホルモン補充療法は安全性の課題が報告されており、有効かつ安全な薬剤が望まれている	フェーズ2試験終了 フェーズ3試験開始に向け FDA相談を準備中
MT-3995	非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH)	複合的な要因で進展する疾患であり、最終的に肝硬変や肝臓がんに至るリスクがあるが、治療薬が存在しない	2019年度2QにPoC ^{*2} 試験結果取得
MT-7117 ^{*3}	赤芽球性プロトポルフィリン症 (EPP)	現在、米国では標準的な治療法がなく、経口の開発品も存在しない 日光への暴露を避ける予防法があるのみ	2019年度3QにPoC試験結果取得

^{*1} 有効な治療法、医薬品がなく、未だに満たされない医療上のニーズ。

^{*2} Proof of Conceptの略、コンセプトの実証。研究開発の段階にある新薬候補物質において、その有効性及び安全性がヒトで確認されること。

^{*3} FDAよりファストトラック指定済。

モダリティ・デジタル変革

病気の診断から治療期間、さらには予後に至るまでの「治療の道のり(ペイシエントジャーニー)」を踏まえた医療ニーズの解析により創薬ターゲットを模索します。さらに新たな価値を持つ医薬品・医療サービスを最速でお届けするために、パートナーとの協業による新たなモダリティの獲得や、AI(人工知能)の活用による治験デザインの効率化を推進していきます。

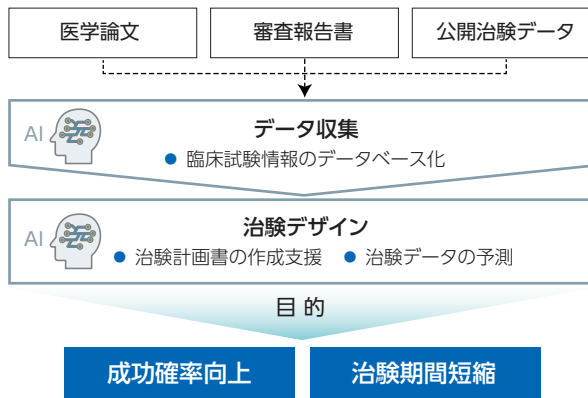
モダリティを活用

従来の低分子や抗体に加え、さまざまなモダリティにも注力。新たなモダリティはパートナーリングによる充足を加速します。



AIを活用

情報/データ収集を支援するAIと、治験デザインを支援するAIを組み合わせることにより、臨床開発業務を効率化します。



社会への価値提供



Value

医療を通じて、 健康で持続可能な社会を実現

日本をはじめとする先進各国では、急速な高齢化と少子化の進展によって社会保障費の伸びが顕著になり、医療コスト低減と上質な医療の両立が求められています。その解決のカギとなるのが「健康寿命の延伸」。つまり、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を延ばすことです。当社グループは、アンメット・メディカル・ニーズに対応した医薬品・医療サービスの提供によって患者さんご家族のQOLを向上させることはもちろん、元気に働ける人を増やすことで社会の生産性向上にも寄与していきます。また、感染症を予防するワクチンや、病状の悪化を防ぐ医療を提供することで疾病の予防にも貢献。これらの価値提供を通じた「健康寿命の延伸」により、持続可能な社会の実現をめざします。

⇒ 詳細についてはP.16 社長メッセージを参照ください。

背景・課題

高齢化社会

社会保障費の抑制

アンメット・メディカル・ニーズ

社会への価値提供

“健康寿命の延伸”

患者さんご家族のQOL向上

社会の生産性向上

疾病の予防

主な貢献例

■ イムセラ(ジレニア)

注射剤による精神的・肉体的負担を軽減させる世界初の多発性硬化症における経口治療剤。患者さんのQOL向上に貢献しています。

■ ラジカヴァ(ラジカット)

希少疾病であるALSの治療剤です。米国では20年ぶりとなる新薬として承認・発売され、患者さんの治療に貢献しています。

■ レミケード

日本初の抗体医薬品として、リウマチ患者さんの関節破壊の進展や痛みを抑制し、生活を支えています。

■ MT-2271 (開発品)

季節性インフルエンザのVLPワクチン。従来の鶏卵ワクチンよりも製造期間を短縮できます。

■ ND0612 (開発品)

パーキンソン病の治療剤と医療用デバイスとの組み合わせにより、治療中でも日常生活の負担が軽減できるようデザインされています。

健康で持続可能な社会を実現

we

財務・非財務ハイライト

田辺三菱製薬および連結子会社

	(億円)			(%)
	2016年度	2017年度 ^{*1}	2018年度	増減率 2017年度/2018年度
売上収益	4,239	4,338	4,247	-2.1
コア営業利益	945	785	558	-28.9
営業利益	940	772	503	-34.9
親会社の所有者に帰属する当期利益	712	579	373	-35.5
研究開発費	647	790	865	+9.4
設備投資額 ^{*2}	144	60	85	+41.7
資産合計	9,845	10,484	10,562	+0.7
資本合計	8,714	8,948	9,103	+1.7
営業キャッシュ・フロー	597	669	414	—
投資キャッシュ・フロー	-105	-191	-312	—
財務キャッシュ・フロー	-244	-325	-258	—
(%)				
財務指標				
海外売上比率	24.4	26.0	27.6	
営業利益率	22.2	17.8	11.8	
研究開発費率	15.3	18.2	20.4	
親会社所有者帰属持分比率	87.4	84.2	85.0	
親会社所有者帰属持分当期利益率 (ROE)	8.5	6.6	4.2	
配当性向	40.9	63.9	84.0	
(円)				
1株データ				
親会社の所有者に帰属する当期利益	127.03	103.35	66.64	-35.5
配当金	52.00	66.00 ^{*3}	56.00	—
(%)				
非財務データ				
従業員数(人)	7,280	7,187	7,228	+0.6
臨床試験の開始数 ^{*4}	4	6	3	—
CO ₂ 排出量(千t-CO ₂) ^{*5}	102	96	91	-5.9
用水取水量(千m ³)	7,980	5,375	4,913	-8.6
廃棄物発生量(国内)(t)	5,936	12,230	5,768	-52.8
廃棄物最終処分率(国内)(%)	0.33	0.37	0.59	—

^{*1} 2018年度第2四半期において、ニューロダーム買収における取得対価の配分が完了しました。これに伴い、連結財政状態計算書の前連結会計年度を遡及修正しています。

^{*2} 有形固定資産および無形資産計上ベース。

^{*3} 当社発足10周年を記念し、2017年度に1株当たり10円の記念配当を実施。

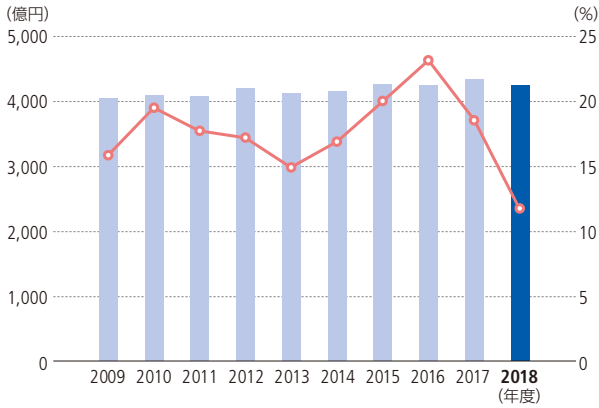
^{*4} フェーズ2試験以降(導入品を含む)。

^{*5} 国内および海外の生産・研究拠点、オフィス(営業車両の燃料使用量は集計に含まない)。

財務データについて、詳しくは「10ヵ年連結財務サマリー」をご参照ください。 (→P.61)

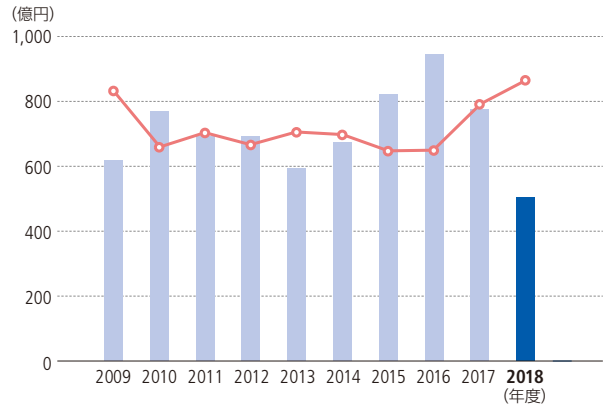
注：2014年度以前の数値については、日本基準で掲載しています。

売上収益／営業利益率



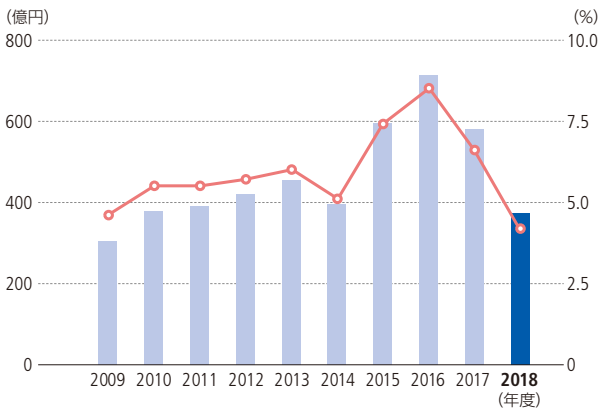
■ 売上収益 ○ 営業利益率

営業利益／研究開発費



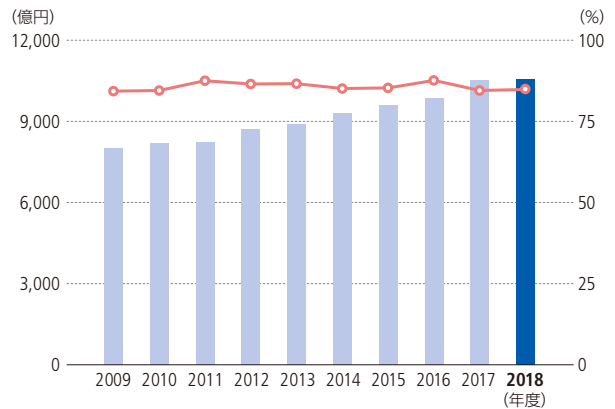
■ 営業利益 ○ 研究開発費

親会社の所有者に帰属する当期利益／ROE



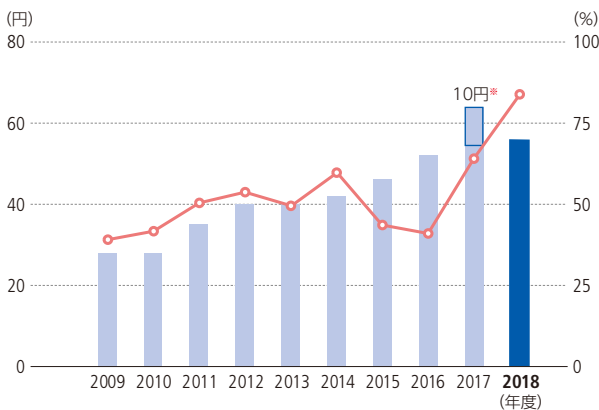
■ 親会社の所有者に帰属する当期利益 ○ ROE

資産合計／親会社所有者帰属持分比率



■ 資産合計 ○ 親会社所有者帰属持分比率

1株当たり配当金／配当性向



■ 1株当たり配当金 ○ 配当性向

※ 当社発足10周年を記念し、2017年度に1株当たり10円の記念配当を実施。

従業員数

